《ピアノ専修・ピアノコース特別授業》

有森博 × 長瀬賢弘
デュオリサイタル

「ロシアの風 vol.6」

2018年12月8日（土）

19:00 開演（18:30 開場）

A.アレンスキー
2台ピアノのための組曲 第2番「シルエット」 作品23
2台ピアノのための組曲 第1番 作品15

P.I.チャイコフスキー
交響曲 第1番 ト短調 作品13「冬の日の幻想」
（ランガー編曲による2台8手版）

©大杉隼平

《演奏解釈論》

伊藤恵
ピアノリサイタル

2018年12月18日（火）

18:30 開演（18:00 開場）

R.シューマン：森の情景 作品82
Lv.ベートーヴェン：ピアノ・ソナタ 第30番 ホ長調 作品109
J.ブラームス：3つの間奏曲 作品117
Lv.ベートーヴェン：ピアノ・ソナタ 第32番 ハ短調 作品111

〈講義〉「ロベルト・シューマン/予言されていた鳥をめぐるファンタジー」
12月19日（水）10:20～12:00 音楽棟大合奏室

沖縄県立芸術大学　奏楽堂ホール

入場無料

（未就学児の入場はご遠慮ください）

お問合せ／沖縄県立芸術大学 音楽表現専攻第2学科室
TEL 098-882-5089（月～金 10:00～18:00）

-Profile-

有森　博
Hiroshi Arimori

1992年東京藝術大学大学院修了。その後モスクワにて研鑽を積み現在に至る。これまでに野上登志子、水本雄三、小林仁、ナターリャ・スースロワの各氏に師事。1990年第12回ショパン国際ピアノコンクール最優秀演奏賞。1991年岡山県芸術顕彰を受賞。1992年第5回シドニー国際ピアノコンクール第4位。1994年第10回チャイコフスキー国際コンクールピアノ部門入賞。1996年から2000年にかけてラフマニノフのピアノ作品全曲演奏会を成し遂げ、2001年にはプロコフィエフのピアノソナタ全曲演奏会を成功させるなど、ロシア作品に積極的に取り組む活動を展開し、ロシア音楽のエキスパートとして高い評価を受ける。1995年、2001年に小澤征爾指揮新日本フィルと協演の他、日本フィル、東京シティフィル、読売日響、九響、関西フィル、山形響、仙台フィル、神奈川フィル、東フィル、芸大フィル、ワルシャワフィル、ポーランド放送響などの内外の主要オーケストラ、著名指揮者との協演を重ねる。 2004年には小澤征爾指揮サイトウキネンオーケストラのメンバーとしてヨーロッパ6カ国ツアー及び日本公演に参加。これまでにソロアルバムで19枚のCDがリリースされ、2017年6月発売「音楽の玉手箱2～露西亜秘曲集」ほか、その多くが特選盤に推薦されている。現在、カバレフスキーとラフマニノフの全曲録音が進行中。 ロシア作品によるリサイタルシリーズを、東京文化会館（「ロシアの玉手箱」）、久世エスパスホール（「ロシアピアニズムの系譜」）にて行っている。東京藝術大学准教授。大阪音楽大学特任教授。桜美林大学客員教授。沖縄県立芸術大学非常勤講師。
公式ホームページ http://arimori.info/

長瀬　賢弘
Yoshihiro Nagase

桐朋学園大学附属子供の為の音楽教室(水戸教室)を経て、1999年東京藝術大学音楽学部附属高等学校を首席で卒業。同大学音楽学部を経、2009年東京藝術大学大学院修士課程を首席で卒業、クロイツァー賞受賞。第23回ピティナピアノコンペティションG級金賞受賞、併せて東京都知事賞、ヒノキ賞受賞。第74回日本音楽コンクール第2位、岩谷賞(聴衆賞)受賞。第20回イタリア・カラブリア国際ピアノコンクール第3位(2位なし)。他、数々のコンクールで優勝や入賞を果たす。2008年よりロームミュージックファンデーションの奨学生に選ばれる。2006年より2011年まで渡露、モスクワ音楽院にて研鑽を積む。2014年東京藝術大学にて博士号を取得。現在、東京藝術大学、桐朋学園大学附属子供の為の音楽教室、沖縄県立芸術大学、桜美林大学、上野学園大学短期大学部にて非常勤講師を務める。後進の指導に携わる一方、東京や地方都市にてソロや室内楽の演奏活動を精力的に行う。また、おでかけアリオス研究会事業などを通じ、教育現場などでのアウトリーチ活動も積極的に行っている。ロシア音楽、とりわけプロコフィエフの演奏には定評があり、2015年よりプロコフィエフのピアノ作品全曲演奏会を開始。これまで、東京フィルハーモニー管弦楽団、東京交響楽団、仙台フィルハーモニー管弦楽団等とピアノ協奏曲を協演。現在までに、故・赤津里佳子、津山博子、堀陽子、平山聡子、故・G.山根美代子、多美智子、M.ヴォスクレセンスキー、有森博の各氏に師事。
公式ウェブサイト http://nagaseyoshihiro.com

伊藤　恵
Kei Itoh

幼少より有賀和子氏に師事。桐朋学園高校を卒業後、ザルツブルク・モーツァルテウム音楽大学、ハノーファー音楽大学において名教師ハンス・ライグラフ氏に師事。エピナール国際コンクール、J.S.バッハ国際音楽コンクール、ロン＝ティボー国際音楽コンクールと数々のコンクールに入賞。1983年第32回ミュンヘン国際音楽コンクールのピアノ部門で日本人として初の優勝。サヴァリッシュ指揮バイエルン州立管と共演し、ミュンヘンでデビュー。その後もミュンヘン・シンフォニカ、フランクフルト放送響（現hr響）、ベルン響、チェコ・フィルの定期公演などに出演。日本では「若い芽のコンサート」でN響との共演をはじめ、各オーケストラとの共演、リサイタル、室内楽、放送と活躍を続けている。CDの代表作は、シューマン・ピアノ曲全曲録音「シューマニアーナ1～13」。2007年秋には全集完成記念コンサートを行った。さらに、2008年にリリースを開始した「シューベルト　ピアノ作品集1～6」は1作ごとに注目を集め、第6集は2015年度レコード・アカデミー賞、第70回文化庁芸術祭賞優秀賞を受賞。最新盤は「ベートーヴェン　ピアノ作品集1」（フォンテック）。また、サイトウ・キネン・フェスティバル松本はじめ武生国際音楽祭、 軽井沢音楽祭、リゾナーレ音楽祭、東京・春・音楽祭、ラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャポンなどに参加。2008年から2015年4月までの新たな8年シリーズではシューベルトを中心としたリサイタルを開催し好評を博した。2018年からはベートーヴェンを中心としたシリーズを開始。1993年日本ショパン協会賞、1994年横浜市文化賞奨励賞受賞。現在、東京藝術大学教授、桐朋学園大学特任教授。